

京都産業大学同窓会 宮崎県支部便り

2011(平成23)年
第4号

発行日 2011年1月1日

発行 京都産業大学
同窓会宮崎県支部

E-mail ksu383ki@yahoo.co.jp



ごあいさつ

宮崎県支部 支部長 佐藤 知徳

新年あけまして
おめでとうございます。

京都産業大学宮
崎県支部の皆様
におかれましては、
穏やかな新年をお
迎えのこととお喜
び申し上げます。



日本代表田中選手と

昨年1月に宮崎県支部長に就任いたしました。中原初代支部長、堀之内前支部長が築かれてきた同窓会支部活動のさらなる発展をめざしてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

宮崎にとって、去年はまさに口蹄疫の年でした。4月に都農町で感染が報道された当時は、まさかあれほど爆発的に感染が広がり、約29万頭もの牛や豚を殺処分することになるとは夢にも思っていませんでした。

手塩にかけて育ててきた家畜の命を殺処分という形で終わらせなければならない畜産農家の方々の精神的な苦痛は想像を絶するものがあったと思います。

宮崎県支部の皆さんもそれぞれのお立場で口蹄疫に関わってこられたことと思いますが、私も川南町ほかの現場で防疫作業にあたりました。作業は、肉体的にも精神的にも非常に辛いものでした。大量の汗が噴き出しても、防護服、二重の手袋等装着の身では、汗をぬぐうこともできず、ただひたすら作業を続けました。殺処分後の牛や豚を埋却する作業では、1日に数百頭もの殺処分後の牛や豚を目の当たりにするこ

とになり、作業から数日しても、その光景がフラッシュバックし、頭から離れませんでした。

5月の非常事態宣言から8月末の終息宣言までは、宮崎県全体が沈んでいたといっても過言ではないでしょう。経済的な打撃ははかりしれず、その克服には数年を要するのかもしれませんが。

8月には都城市内でソフトボールの西日本大学選手権が開催される予定で、本学の応援を楽しみにしていましたが、開催地が福岡県内に変更になってしまいました。

そのような中で、時折、本学鳥インフルエンザ研究センター所長の大槻公一教授の口蹄疫に関するコメントの報道や、7月には、(株)アサヒビールの、本学出身、泉谷直木社長自らが宮崎を訪れ、義援金を寄付いただいたことなど、卒業生として、非常にうれしく思いました。ビールを飲むなら、スーパードライでと思ったのは私だけではないでしょう。

2011年こそ、口蹄疫からの復興、そしてよい年にしたいものです。昨年何度も宮崎で合宿を行ったラグビー日本代表には、本学出身のスクラムハーフ田中史朗選手がいます。今年もラグビー日本代表は宮崎での合宿を予定しているとのこと。皆さんとともに、田中選手を応援することを楽しみにしております。

1月22日開催の宮崎県支部総会では、昨年10月に就任されたばかりの藤岡新学長に出席いただく予定です。多くの方に出席いただけたらと思います。

創立50周年(2015年)に向け、京都産業大学がますます元気になるよう、まずは宮崎から元気になりましょう。

皆様にとって、本年がよい年となりますよう心からお祈りいたします。

会員短信

グリークラブの思い出

河野洋平(平成10年経済学部卒)

私が京都産業大学に入学した理由は「グリークラブに入るため」です。

高校時代、合唱をしていた私は大学でも続けたいと思っていました。

関西学院とかは有名でしたが当時の私の

頭脳ではとても無理であったため色々調べていると「京都産業大学」が目に入ったのです。

京産グリーはその当時(というか何年も前からですが)は全国大会金賞受賞していたので是非そこで歌いたい!という気持ちのみで入学しました。学部は入れたら何でもよかったのです。

入学式の後2、3日は勧誘されるのを待っていたのですが、どういうわけか勧誘されず、仕方なく？自分から「入りたいんですけど。」と志願しました。勧誘されて入部する団員がほとんどのグリークラブの中では数少ない志願兵として入部しました。

入部してからは思っていたのとは想像もつかないほどの厳しい毎日でした。練習が厳しいのは覚悟していたのですが、厳しいのは練習後に「〇〇について明日までに考えるように。」と2回生からお題を出されることでした。話し合いをしていつも帰るのは10時半頃。追分寮の門限ぎりぎりでした。話し合いといっても私はほとんどしゃべることなくただ黙って聞いているだけ。



時間がくれば「お先に・・。」と言っ

ていました。当時のメンバーには申し訳ないな、と思っています。

グリークラブは夏と冬に合宿をするのですがこれもハードでした。夏は9泊10日。冬は7泊8日ぐらいだったのですが来た日と帰る日を除いては毎日9時間（午前中3時間、午後4時間、夜2時間）歌いました。3、4日目にはのどががらがらになっていました。これを4年間男のみで完遂したのです。単純計算で約2カ月間は男だけで過ごしたことになります。

1番の思い出はコンクールです。全国大会に出場したのは1～3回生の時で、1回生の時は金沢、2回生の時は高松で金賞を取り、3回生の時は宇都宮で銀賞で、連続金賞を5年で止めてしまいました。4回生最後のコンクールは関西予選で終わりました。でも、「全国大会に行きたい!」という目標は達成できました。

今でも男声合唱団に入って歌い続けています。また、京産グリーのOB会合唱団「アルシェ」の2年に1回京都で開催される演奏会にも参加しています。これから先もずっと歌い続けるんだろうな。そう思っています。

ラグビー日本代表宮崎合宿

2011年10月から開催されるラグビーワールドカップに向け、昨年はラグビー日本代表が、4月・5月・10月・11月と何度もシーガイアで合宿を行いました。

この日本代表には、京都産業大学出身の、スクラムハーフ田中史朗（ふみあき）選手がいます。

合宿の練習終了後に話しかけてみましたが、笑顔で礼儀正しく対応してくれました。体は大きくありませんが、日本代表にすっかりなじんでいる様子で、練習中には、チームメイトやカーワンコーチから、「フミ、フミ」と声がかかり、すばやい身のこなしで正確なパスを繰り出していました。

田中選手の所属する三洋電機ワイルドナイツは、日本選手権3連覇中。実は5年連続で宮崎合宿をしているのですが、毎年日本代表の招集と重なって、宮崎に来たことがなく、昨年4月が初めての宮崎入りとのことでした。

焼酎を飲むか聞いてみたところ、即座に「飲んでみたいです。」と返事が返ってきたので、早速地鶏などとともに、霧島や木挽を差し入れました。

田中選手は、韓国ほかで行われたワールドカップ予選のほとんどの試合に先発出場。本番でも期待がふくらみます。

日本代表のカーワンコーチも、すっかり宮崎がお気に入り、早朝からシーガイア付近の砂浜でサーフィンを楽しんでいたようですが、半端ではないうまさだったとか。

11月の日本代表合宿後、田中選手は、今度は三洋電機の合宿で再び宮崎入り。宮崎県総合運動公園ラグビー場で練習前に声をかけ、激励しました。

今年は、ワールドカップが開催されるニュージーランドで大暴れしてほしいと思います。

日本代表は、今年も宮崎での合宿を予定しています。

みなさん、今年もぜひ田中選手を応援しましょう。



募集！会員短信に掲載しませんか？

学生時代の思い出、近況などをお寄せください。可能であれば写真（別途郵送でもOK）も添えて電子メールで事務局(ksu383ki@yahoo.co.jp)まで。この支部便りまたは宮崎県支部のホームページ(<http://www.geocities.jp/ksumiyazaki/>)に掲載させていただきます。